

第10章 環境影響評価準備書の記載事項の修正内容

環境影響評価書の作成にあたり、準備書の記載事項について検討を加え、修正した内容は、表 10-1 に示すとおりである。

表 10-1(1) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|-----------------------|--|---|
| 目次 | — | <u>第 9 章 環境影響評価準備書に対する意見の概要及び知事意見と都市計画決定権者の見解</u> |
| | — | <u>第 10 章 環境影響評価準備書の記載事項の修正内容</u> |
| | 第 9 章 環境影響評価の委託先の名称、代表者の氏名及び所在地 | <u>第 11 章 環境影響評価の委託先の名称、代表者の氏名及び所在地</u> |
| p. 2-4 第 2 章第 2 節 | 3. 都市計画対象事業の計画策定に至る経緯 表 2. 2. 3-1(2) 本事業の計画策定の経緯 | <u>平成 25 年 5 月</u> <u>愛媛県環境影響評価条例に基づき、環境影響評価準備書を公告し、縦覧に付した。</u> <u>今治市広域都市計画ごみ焼却場の変更に係る都市計画原案を公告し、縦覧に付した。</u> <u>平成 25 年 8 月</u> <u>愛媛県環境影響評価条例に基づき、「環境影響評価準備書についての意見の概要及び当該意見についての事業者の見解について」を公告し、縦覧に付した。</u> <u>平成 25 年 11 月</u> <u>愛媛県から環境影響評価準備書に対する知事意見の送付を受けた。</u> <u>(記述追加)</u> |
| p. 2-11 第 2 章第 4 節 | 表 2. 4. 2-1 対象事業実施区域の面積及び都市計画事項等 (その他欄) ②農用地 一部指定有 | ②農用地 <u>指定なし</u> |
| p. 2-13 第 2 章第 4 節 | 図 2. 4. 2-2 対象事業実施区域 | <u>(航空写真更新)</u> |
| p. 2-18 第 2 章第 4 節 | 4. 3. 主要設備 可燃ごみ処理施設の主要設備の概要は、表 2. 4. 4-4 に示すとおりである。 | <u>可燃ごみ処理施設の主要設備の概要は、表 2. 4. 4-4 に示すとおりである。また、主要設備の配置例は、<u>図 2. 4. 4-2 及び図 2. 4. 4-3 に示すとおりである。</u></u> |

表 10-1 (2) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|------------------------|---|---|
| p. 2-19 第 2 章第 4 節 | | 図 2.4.4-2 主要設備の配置例 (平面図) (図を追加) |
| p. 2-20 第 2 章第 4 節 | | 図 2.4.4-3 主要設備の配置例 (断面図) (図を追加) (上記図の挿入に伴い、以降の第 2 章のページ番号を繰り下げ) |
| p. 2-32 第 2 章第 4 節 | 9. 環境配慮事項 | 9.3. その他の配慮事項 本事業の実施に際して、島嶼部のごみを搬送するため、島嶼部に中継施設を設ける場合にあっては、中継基地周辺における車両の集中や中継基地内で保管される廃棄物により中継基地周辺の生活環境へ支障が生じないよう、当該廃棄物の管理徹底等により、中継基地周辺の周辺環境に十分配慮して事業を実施する。 (記述を追加) |
| p. 3-28 第 3 章第 1 節 | 表 3.1.3-1 公害苦情件数 | 表 3.1.3-1 公害苦情件数 (土壌汚染及び地盤沈下) |
| p. 3-84 第 3 章第 2 節 | 9.5. 水質 (1) 環境基準 また、河川の生活環境の保全に関する水質環境基準は表 3.2.9-20 に、全亜鉛の環境基準は表 3.2.9-21 に、地下水の水質汚濁に係る環境基準は表 3.2.9-22 に示すとおりである。 | また、河川の生活環境の保全に関する水質環境基準は表 3.2.9-20 に、湖沼の生活環境の保全に関する水質環境基準は表 3.2.9-21 に、地下水の水質汚濁に係る環境基準は表 3.2.9-22 に示すとおりである。 |
| p. 3-85 第 3 章第 2 節 | 表 3.2.9-20 生活環境の保全に関する環境基準 (河川) イ | (表中、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩を追加) |
| p. 3-87 第 3 章第 2 節 | 表 3.2.9-21 (2) 生活環境の保全に関する環境基準 (湖沼) ウ | (表中、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩を追加) |
| p. 5.1-6 第 5 章第 1 節 | ア. 硫黄酸化物 (二酸化硫黄) 現地調査における二酸化硫黄の測定結果は表 5.1.1-6 に示すとおりである (詳細は資料編 3.1-1 ページ参照)。 | 現地調査地点における二酸化硫黄の測定結果は表 5.1.1-6 に示すとおりである (詳細は資料編 3.1-1 ページ参照)。 |

表 10-1 (3) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|--------------------|--|--|
| p. 5.1-6 第5章第1節 | ア. 硫黄酸化物（二酸化硫黄） 期間平均値は0.002～0.003ppm、日平均値の最高値は0.004～0.008ppm、1時間値の最高値は0.010～0.024ppmとなっていた。各地点とも日平均値が0.04ppmを超えた日がなく、かつ1時間値が0.1ppmを超えた時間がなく、環境基準値を下回っていた。 | 期間平均値は0.002～ <u>0.004</u> ppm、日平均値の最高値は0.004～0.008ppm、1時間値の最高値は0.010～0.024ppmとなっていた。各地点とも日平均値が0.04ppmを超えた日がなく、かつ1時間値が0.1ppmを超えた時間がなく、環境基準値を下回っていた。 |
| | 表 5.1.1-6 二酸化硫黄の現地調査結果 (調査地点 No. 5 夏季欄) 0.002 (調査地点 No. 5 期間平均値欄) 0.003 (欄外注記) 注1) 表中の測定地点は図 5.1.1-1 に対応する。 | <u>0.003</u> <u>0.004</u> 注1) 表中の調査地点は図 5.1.1-1 に対応する。 |
| p. 5.1-7 第5章第1節 | 表 5.1.1-7(1) 窒素酸化物の現地調査結果（一酸化窒素） (欄外注記) 注1) 表中の測定地点は図 5.1.1-1 に対応する。 | 注1) 表中の調査地点は図 5.1.1-1 に対応する。 |
| p. 5.1-8 第5章第1節 | 表 5.1.1-7(2) 窒素酸化物の現地調査結果（二酸化窒素） (欄外注記) 注1) 表中の測定地点は図 5.1.1-1 に対応する。 | 注1) 表中の調査地点は図 5.1.1-1 に対応する。 |
| | 表 5.1.1-7(3) 窒素酸化物の現地調査結果（窒素酸化物） (調査地点 No. 2 1時間値の最高値欄) 0.059 (欄外注記) 注1) 表中の測定地点は図 5.1.1-1 に対応する。 | <u>0.060</u> 注1) 表中の調査地点は図 5.1.1-1 に対応する。 |
| p. 5.1-9 第5章第1節 | 表 5.1.1-8 浮遊粒子状物質の現地調査結果（調査地点 No. 4 春季欄） 0.028 (欄外注記) 注1) 表中の測定地点は図 5.1.1-1 に対応する。 | <u>0.029</u> 注1) 表中の調査地点は図 5.1.1-1 に対応する。 |

表 10-1(4) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|---------------------|--|--|
| p. 5.1-10 第5章第1節 | 表 5.1.1-9 ダイオキシン類の現地調査結果 (欄外注記) 注1) 表中の測定地点は図 5.1.1-1 に対応する。 | 注1) 表中の調査地点は図 5.1.1-1 に対応する。 |
| p. 5.1-11 第5章第1節 | (イ) 塩化水素 建設地近傍の各測定地点における塩化水素の測定結果は表 5.1.1-10 に示すとおりである(詳細は資料編 3.1-155 ページ参照)。 | 現地調査地点における塩化水素の測定結果は表 5.1.1-10 に示すとおりである(詳細は資料編 3.1-155 ページ参照)。 |
| | 表 5.1.1-10 塩化水素の現地調査結果 (欄外注記) 注1) 表中の測定地点は図 5.1.1-1 に対応する。 | |
| p. 5.1-12 第5章第1節 | 表 5.1.1-11 降下ばいじんの現地調査結果 (欄外注記) 注1) 表中の測定地点は図 5.1.1-1 に対応する。 | 注1) 表中の調査地点は図 5.1.1-1 に対応する。 |
| p. 5.1-29 第5章第1節 | 表 5.1.2-1 点煙源拡散式(建設機械の稼働) (記号説明欄) σ_y 、 σ_z : 水平(y)、鉛直(z)方向の拡散幅(m)(図 5.1.2-2 参照) | σ_y 、 σ_z : 水平(y)、鉛直(z)方向の拡散幅(m)(図 5.1.2-8 参照) |
| | 有風時における拡散係数については、図 5.1.2-8 に示すパスキルーギフォード図を用いた。 | |
| p. 5.1-30 第5章第1節 | 図 5.1.2-8 パスキルーギフォードによる拡散係数(σ_y 、 σ_z) | 図 5.1.2-8 パスキルーギフォードによる拡散幅(σ_y 、 σ_z) |
| p. 5.1-39 第5章第1節 | イ. 予測条件 (ア) ユニット及び基準降下ばいじん量の設定 土砂掘削に係る基準降下ばいじん量は、表 5.1.2-10 に示すとおりである。 | 土砂掘削に係る基準降下ばいじん量[a]及び拡散を表す係数[c]は、表 5.1.2-10 に示すとおりである。 |
| p. 5.1-41 第5章第1節 | イ. 予測条件 (ア) 工事中交通量 予測断面は、「2.6 予測条件 (2) 工事用資材等の搬出入に伴う窒素酸化物及び浮遊粒子状物質 イ. 予測条件 (ア) 工事中交通量」に同じとした。 | 工事中交通量は、「2.6 予測条件 (2) 工事用資材等の搬出入に伴う窒素酸化物及び浮遊粒子状物質 イ. 予測条件 (ア) 工事中交通量」に同じとした。 |

表 10-1 (5) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|--------------------------|---|--|
| p. 5. 1-42 第 5 章第 1 節 | (ウ) 気象条件 予測断面は、「2.6 予測条件 (3) 造成等 施工による一時的な影響及び建設機械の稼 働に伴う粉じん等 イ. 予測条件 (エ) 気象 条件」と同じとした。 | <u>気象条件は、「2.6 予測条件 (3) 造成等 施工による一時的な影響及び建設機械の稼 働に伴う粉じん等 イ. 予測条件 (エ) 気象 条件」と同じとした。</u> |
| | ア. 長期平均濃度 (年平均値) の予測 (7) 予測式 予測式は、経済産業省一低煙源工場拡散モ デル (METI-LIS ver3.02) を用いた。 | 予測式は、経済産業省一低煙源工場拡散モ デル (METI-LIS ver3.02) を用いた。 <u>METI-LIS での拡散計算に際しては、表 5.1.2-13 に示す本施設の建物によるダウ ンウォッシュ (風が建物に当たると、下流側で 渦が発生し、煙突からの排煙がこれに巻き込 まれる現象) 及びスタックチップ・ダウン ウォッシュ (風が煙突の搭体に当たると、煙突 内筒の排煙出口付近で渦が生じ、煙突から の排煙がこれに巻き込まれる現象) を考慮し た。</u> |
| p. 5. 1-43 第 5 章第 1 節 | | <u>表 5.1.2-13 MITE-LIS の拡散計算で考慮し たダウンウォッシュ</u> <u>(表を追加)</u> <u>(以降の第 5 章第 1 節の表番号を繰り下げ)</u> <u>(上記表の挿入に伴い、以降の第 5 章第 1 節のページ番号繰り下げ)</u> |
| p. 5. 1-46 第 5 章第 1 節 | 表 5.1.2-16 バックグラウンド濃度 (長期 平均濃度) (二酸化硫黄 予測地点 No. 5 欄) 0.003 | 表 5.1.2-17 バックグラウンド濃度 (長期 平均濃度) 0.004 |
| p. 5. 1-48 第 5 章第 1 節 | 表 5.1.2-17(2) 短期濃度 (1 時間値) の予 測ケース (予測ケース欄) ダウンウォッシュ発生時 | 表 5.1.2-18(2) 短期濃度 (1 時間値) の予 測ケース 強風に伴うダウンウォッシュ発生時 |
| p. 5. 1-49 第 5 章第 1 節 | 表 5.1.2-18(1) 短期濃度予測時の拡散計 算式及び予測条件 (有効煙突高等欄) 排ガス上昇式 有風時:コケイ式 無風時・弱風時:ブリックス式 | 表 5.1.2-19(1) 短期濃度予測時の拡散計 算式及び予測条件 排ガス上昇式 有風時:コケイ式 無風時・弱風時:ブリックス式 <u>建物ダウンウォッシュ、スタックチップ・ダ ウンウォッシュを考慮した。</u> |

表 10-1 (6) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|---------------------|---|--|
| p. 5.1-50 第5章第1節 | 表 5.1.2-18(1) 短期濃度予測時の拡散計算式及び予測条件 (検討ケース欄) d. <u>ダウンウォッシュ発生時</u> (有効煙突高等欄) 有効煙突高=煙突実体高(59m) | 表 5.1.2-19(2) 短期濃度予測時の拡散計算式及び予測条件 d. <u>強風に伴うダウンウォッシュ発生時</u> 有効煙突高=煙突実体高(59m) <u>建物ダウンウォッシュ、スタックチップ・ダウンウォッシュを考慮した。</u> |
| | 表 5.1.2-19 バックグラウンド濃度(短期濃度) (窒素酸化物欄) 0.059 | 表 5.1.2-20 バックグラウンド濃度(短期濃度) 0.060 |
| p. 5.1-56 第5章第1節 | 表 5.1.2-22(1) 建設機械の稼働に伴う大気質濃度(年平均値)予測結果 | (欄外注記) <u>注) 端数処理の関係で、合計等が合わない場合がある。</u> <u>(注記追加、以降の予測結果にも表記)</u> |
| p. 5.1-59 第5章第1節 | 表 5.1.2-23(1) 工事用車両及び関係車両の走行に伴う二酸化窒素濃度(年平均値)の予測結果(道路端) (タイトル行) 工事中の将来濃度(④=①+②+⑤) | 表 5.1.2-24(1) 工事用車両及び関係車両の走行に伴う二酸化窒素濃度(年平均値)の予測結果(道路端) 工事中の将来濃度(④=①+②+③) |
| | 表 5.1.2-23(2) 工事用車両及び関係車両の走行に伴う浮遊粒子状物質濃度(年平均値)の予測結果(道路端) (タイトル行) 工事中の将来濃度(④=①+②+⑤) | 表 5.1.2-24(2) 工事用車両及び関係車両の走行に伴う浮遊粒子状物質濃度(年平均値)の予測結果(道路端) 工事中の将来濃度(④=①+②+③) |
| p. 5.1-61 第5章第1節 | (ア) 二酸化硫黄 排ガス量が最小の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000117ppm、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.002ppm と予測される。本施設の稼働による付加率は 5.16% である。 排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000128ppm、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.002ppm と予測される。本施設の稼働による付加率は 5.51% である。 | 排ガス量が最小の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000117ppm、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.003ppm と予測される。本施設の稼働による付加率は 4.66% である。 排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000128ppm、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.003ppm と予測される。本施設の稼働による付加率は 5.07% である。 |

表 10-1(7) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|---------------------|---|--|
| p. 5.1-61 第5章第1節 | 表 5.1.2-26(1) 施設の稼働に伴う二酸化硫黄濃度予測結果〔年平均値〕（排ガス量最小時） （予測地点 No.5 バックグラウンド濃度欄） 0.003 （同 将来濃度欄） 0.003 （同 付加率欄） 0.21 （最大着地濃度出現地点 将来濃度欄） 0.002 （同 付加率欄） 5.16 | 表 5.1.2-27(1) 施設の稼働に伴う二酸化硫黄濃度予測結果〔年平均値〕（排ガス量最小時） <u>0.004</u> <u>0.004</u> <u>0.16</u> <u>0.003</u> <u>4.66</u> |
| | 表 5.1.2-26(2) 施設の稼働に伴う二酸化硫黄濃度予測結果〔年平均値〕（排ガス量最大時） （予測地点 No.5 バックグラウンド濃度欄） 0.003 （同 将来濃度欄） 0.003 （同 付加率欄） 0.22 （最大着地濃度出現地点 将来濃度欄） 0.002 （同 付加率欄） 5.51 | 表 5.1.2-27(2) 施設の稼働に伴う二酸化硫黄濃度予測結果〔年平均値〕（排ガス量最大時） <u>0.004</u> <u>0.004</u> <u>0.17</u> <u>0.003</u> <u>5.07</u> |

表 10-1 (8) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|-----------------------------|--|---|
| <p>p. 5.1-64 第5章第1節</p> | <p>(イ) 二酸化窒素</p> <p>排ガス量が最小の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000129ppm、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.006ppm と予測される。本施設の稼働による付加率は 2.15% である。</p> <p>排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000141ppm、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.006ppm と予測される。本施設の稼働による付加率は 2.35% である。</p> | <p>排ガス量が最小の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000129ppm、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は <u>0.007ppm</u> と予測される。本施設の稼働による付加率は <u>1.97%</u> である。</p> <p>排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000141ppm、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は <u>0.007ppm</u> と予測される。本施設の稼働による付加率は <u>2.16%</u> である。</p> |
| | <p>表 5.1.2-27(1) 施設の稼働に伴う二酸化窒素濃度予測結果〔年平均値〕 (排ガス量最小時)</p> <p>(最大着地濃度出現地点 将来濃度欄) 0.006</p> <p>(同 付加率欄) 2.15</p> | <p>表 5.1.2-28(1) 施設の稼働に伴う二酸化窒素濃度予測結果〔年平均値〕 (排ガス量最小時)</p> <p><u>0.007</u></p> <p><u>1.97</u></p> |
| | <p>表 5.1.2-27(2) 施設の稼働に伴う二酸化窒素濃度予測結果〔年平均値〕 (排ガス量最大時)</p> <p>(予測地点 No.3 付加率欄) 0.23</p> <p>(予測地点 No.4 付加率欄) 1.06</p> <p>(最大着地濃度出現地点 将来濃度欄) 0.006</p> <p>(同 付加率欄) 2.35</p> | <p>表 5.1.2-28(2) 施設の稼働に伴う二酸化窒素濃度予測結果〔年平均値〕 (排ガス量最大時)</p> <p><u>0.21</u></p> <p><u>1.05</u></p> <p><u>0.007</u></p> <p><u>2.16</u></p> |

表 10-1 (9) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|-----------------------------|--|---|
| <p>p. 5.1-67 第5章第1節</p> | <p>(ウ) 浮遊粒子状物質</p> <p>排ガス量が最小の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000037mg/m³、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.023mg/m³ と予測される。本施設の稼働による付加率は 0.16% である。</p> <p>排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000041mg/m³、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.023mg/m³ と予測される。本施設の稼働による付加率は 0.17% である。</p> | <p>排ガス量が最小の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000037mg/m³、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.023mg/m³ と予測される。本施設の稼働による付加率は <u>0.160%</u> である。</p> <p>排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000041mg/m³、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.023mg/m³ と予測される。本施設の稼働による付加率は <u>0.176%</u> である。</p> |
| | <p>表 5.1.2-28(1) 施設の稼働に伴う浮遊粒子状物質予測結果〔年平均値〕 (排ガス量最小時)</p> <p>(最大着地濃度出現地点 付加率欄)</p> <p>0.16</p> | <p>表 5.1.2-29(1) 施設の稼働に伴う浮遊粒子状物質予測結果〔年平均値〕 (排ガス量最小時)</p> <p><u>0.160</u></p> |
| | <p>表 5.1.2-28(2) 施設の稼働に伴う浮遊粒子状物質予測結果〔年平均値〕 (排ガス量最大時)</p> <p>(最大着地濃度出現地点 付加率欄)</p> <p>0.17</p> | <p>表 5.1.2-29(2) 施設の稼働に伴う浮遊粒子状物質予測結果〔年平均値〕 (排ガス量最大時)</p> <p><u>0.176</u></p> |
| <p>p. 5.1-70 第5章第1節</p> | <p>(エ) ダイオキシン類</p> <p>排ガス量が最小の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000186 pg-TEQ/m³、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.014 pg-TEQ/m³ と予測される。本施設の稼働による付加率は 1.3% である。</p> <p>排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000204 pg-TEQ/m³、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.014 pg-TEQ/m³ と予測される。本施設の稼働による付加率は 1.5% である。</p> | <p>排ガス量が最小の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000186 pg-TEQ/m³、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は <u>0.015</u> pg-TEQ/m³ と予測される。本施設の稼働による付加率は <u>1.28%</u> である。</p> <p>排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000204 pg-TEQ/m³、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は <u>0.015</u> pg-TEQ/m³ と予測される。本施設の稼働による付加率は <u>1.40%</u> である。</p> |

表 10-1(10) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|---------------------|--|---|
| p. 5.1-70 第5章第1節 | 表 5.1.2-29(1) 施設の稼働に伴うダイオキシン類濃度予測結果〔年平均値〕（排ガス量最小時） （最大着地濃度出現地点 将来濃度欄） 0.014 （同 付加率欄） 1.3 | 表 5.1.2-30(1) 施設の稼働に伴うダイオキシン類濃度予測結果〔年平均値〕（排ガス量最小時） <u>0.015</u> <u>1.28</u> |
| | 表 5.1.2-29(2) 施設の稼働に伴うダイオキシン類濃度予測結果〔年平均値〕（排ガス量最大時） （最大着地濃度出現地点 将来濃度欄） 0.014 （同 付加率欄） 1.5 | 表 5.1.2-30(2) 施設の稼働に伴うダイオキシン類濃度予測結果〔年平均値〕（排ガス量最大時） <u>0.015</u> <u>1.40</u> |
| p. 5.1-73 第5章第1節 | 表 5.1.2-30(1) 施設の稼働に伴う塩化水素濃度予測結果〔年平均値〕（排ガス量最小時） （予測地点 No.1 付加率欄） 1.1 | 表 5.1.2-31(1) 施設の稼働に伴う塩化水素濃度予測結果〔年平均値〕（排ガス量最小時） <u>1.0</u> |
| | 表 5.1.2-30(2) 施設の稼働に伴う塩化水素濃度予測結果〔年平均値〕（排ガス量最大時） （予測地点 No.1 付加率欄） 2.9 | 表 5.1.2-31(2) 施設の稼働に伴う塩化水素濃度予測結果〔年平均値〕（排ガス量最大時） <u>2.8</u> |
| p. 5.1-76 第5章第1節 | 表 5.1.2-31(1) 大気安定度不安定時の予測結果（1時間値）（排ガス量最小時） | 表 5.1.2-32(1) 大気安定度不安定時の予測結果（1時間値）（排ガス量最小時） <u>（表のタイトル行に、計算式を表示）</u> <u>（以降、p.5.1-80、表 5.1.2-36(2)まで、同様に修正）</u> |
| | 表 5.1.2-31(2) 大気安定度不安定時の予測結果（1時間値）（排ガス量最大時） （ダイオキシン類 最大着地濃度欄） 0.0112 （同 バックグラウンド濃度欄） 0.023 | 表 5.1.2-32(2) 大気安定度不安定時の予測結果（1時間値）（排ガス量最大時） <u>0.0120</u> <u>0.028</u> |

表 10-1(11) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|---------------------|--|---|
| p. 5.1-77 第5章第1節 | <p>(イ) 上層逆転層発生時 (リッド状態)</p> <p>排ガス量が最小の場合、着地濃度は大気安定度A、風速 1.0m/s、有効煙突高を逆転層下面高さ 147m と同じとした場合が最大となり、最大着地濃度出現地点は煙突から風下側約 450m に出現する。</p> <p>排ガス量が最大の場合、着地濃度は大気安定度A、風速 1.0m/s、有効煙突高を逆転層下面高さ 165m と同じとした場合の時が最大となり、最大着地濃度出現地点は、煙突から風下側約 450m に出現する。</p> | <p>排ガス量が最小の場合、着地濃度は大気安定度A、風速 1.0m/s、有効煙突高を逆転層下面高さ 147m と同じとした時が最大となり、最大着地濃度出現地点は煙突から風下側約 450m に出現する。</p> <p>排ガス量が最大の場合、着地濃度は大気安定度A、風速 1.0m/s、有効煙突高を逆転層下面高さ 165m と同じとした時が最大となり、最大着地濃度出現地点は、煙突から風下側約 450m に出現する。</p> |
| p. 5.1-81 第5章第1節 | <p>表 5.1.2-36(1) 廃棄物収集運搬車両の走行に伴う二酸化窒素濃度 (年平均値) の予測結果 (道路端)</p> <p>(タイトル行) 供用後の将来濃度 (④=①+②+⑤)</p> <p>表 5.1.2-36(2) 廃棄物収集運搬車両の走行に伴う浮遊粒子状物質濃度 (年平均値) の予測結果 (道路端)</p> <p>(タイトル行) 供用後の将来濃度 (④=①+②+⑤)</p> | <p>表 5.1.2-37(1) 廃棄物収集運搬車両の走行に伴う二酸化窒素濃度 (年平均値) の予測結果 (道路端)</p> <p>供用後の将来濃度 (④=①+②+③)</p> <p>表 5.1.2-37(2) 廃棄物収集運搬車両の走行に伴う浮遊粒子状物質濃度 (年平均値) の予測結果 (道路端)</p> <p>供用後の将来濃度 (④=①+②+③)</p> |
| p. 5.1-93 第5章第1節 | <p>(イ) 基準または目標との整合性に係る評価 造成等施工による一時的な影響及び建設機械の稼働に伴う粉じん等の評価は、表 5.1.3-8 に示すとおりである。</p> | <p>工所用資材等の搬出入に伴う粉じん等の評価は、表 5.1.3-8 に示すとおりである。</p> |
| p. 5.1-95 第5章第1節 | <p>(イ) 基準または目標との整合性に係る評価 i. 長期平均濃度</p> <p>対象事業実施区域西南西側約 600m 付近の最大着地濃度出現地点における将来濃度は、二酸化硫黄 (日平均値の 2% 除外値) は 0.006ppm、二酸化窒素 (日平均値の年間 98% 値) は 0.015ppm、浮遊粒子状物質 (日平均値の 2% 除外値) は 0.058mg/m³、ダイオキシン類 (年平均値) は 0.014pg-TEQ/m³、塩化水素 (年平均値) 0.001ppm となり、いずれも評価の指標を下回る。</p> | <p>対象事業実施区域西南西側約 600m 付近の最大着地濃度出現地点における将来濃度は、二酸化硫黄 (日平均値の 2% 除外値) は 0.006ppm、二酸化窒素 (日平均値の年間 98% 値) は <u>0.016</u>ppm、浮遊粒子状物質 (日平均値の 2% 除外値) は 0.058mg/m³、ダイオキシン類 (年平均値) は <u>0.015</u>pg-TEQ/m³、塩化水素 (年平均値) 0.001ppm となり、いずれも評価の指標を下回る。</p> |

表 10-1(12) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|---------------------|---|--|
| p. 5.1-95 第5章第1節 | 表 5.1.3-9(1) 施設の稼働に伴う二酸化硫黄の濃度の評価 (排ガス量最小時) (予測地点 No. 5 年平均値欄) 0.003 (同 日平均値の年間 2%除外値欄) 0.007 (同 施設の稼働による付加率欄) 0.21 (最大着地濃度出現地点 年平均値欄) 0.002 (同 施設の稼働による付加率欄) 5.16 | <u>0.004</u> <u>0.009</u> <u>0.16</u> <u>0.003</u> <u>4.66</u> |
| | 表 5.1.3-9(2) 施設の稼働に伴う二酸化硫黄の濃度の評価 (排ガス量最大時) (予測地点 No. 5 年平均値欄) 0.003 (同 日平均値の年間 2%除外値欄) 0.007 (同 施設の稼働による付加率欄) 0.22 (最大着地濃度出現地点 年平均値欄) 0.002 (同 施設の稼働による付加率欄) 5.51 | <u>0.004</u> <u>0.009</u> <u>0.17</u> <u>0.003</u> <u>5.07</u> |
| p. 5.1-96 第5章第1節 | 表 5.1.3-9(3) 施設の稼働に伴う二酸化窒素の濃度の評価 (排ガス量最小時) (最大着地濃度出現地点 日平均値の年間 98%値欄) 0.015 (同 施設の稼働による付加率欄) 2.15 | <u>0.016</u> <u>1.97</u> |

表 10-1(13) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|-----------------------------------|--|--------------|
| p. 5.1-96 第5章第1節 | 表 5.1.3-9(4) 施設の稼働に伴う二酸化窒素の濃度の評価 (排ガス量最大時) | |
| | (予測地点 No.3 施設の稼働による付加率欄) 0.23 | <u>0.21</u> |
| | (予測地点 No.4 施設の稼働による付加率欄) 1.01 | <u>1.05</u> |
| | (最大着地濃度出現地点 日平均値の年間98%値欄) 0.015 | <u>0.016</u> |
| | (同 施設の稼働による付加率欄) 2.14 | <u>2.16</u> |
| | 表 5.1.3-9(5) 施設の稼働に伴う浮遊粒子状物質の濃度の評価 (排ガス量最大時) | |
| | (最大着地濃度出現地点 日平均値の施設の稼働による付加率欄) 0.16 | <u>0.160</u> |
| p. 5.1-97 第5章第1節 | 表 5.1.3-9(6) 施設の稼働に伴う浮遊粒子状物質の濃度の評価 (排ガス量最大時) | |
| | (最大着地濃度出現地点 施設の稼働による付加率欄) 0.17 | <u>0.176</u> |
| | 表 5.1.3-9(7) 施設の稼働に伴うダイオキシン類の濃度の評価 (排ガス量最小時) | |
| | (最大着地濃度出現地点 将来濃度(年平均値)欄) 0.014 | <u>0.015</u> |
| | (同 施設の稼働による付加率欄) 1.3 | <u>1.28</u> |
| | 表 5.1.3-9(8) 施設の稼働に伴うダイオキシン類の濃度の評価 (排ガス量最大時) | |
| (最大着地濃度出現地点 将来濃度(年平均値)欄) 0.014 | <u>0.015</u> | |
| (同 施設の稼働による付加率欄) 1.5 | <u>1.40</u> | |

表 10-1(14) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|----------------------------------|---|--|
| <p>p. 5. 1-98 第 5 章第 1 節</p> | <p>表 5. 1. 3-9(9) 施設の稼働に伴う塩化水素の濃度の評価 (排ガス量最小時)</p> <p>(予測地点 No. 1 将来濃度 (年平均値) 欄) 0. 001</p> <p>(同 施設の稼働による付加率欄) 3. 1</p> <p>(予測地点 No. 2 将来濃度 (年平均値) 欄) 0. 001</p> <p>(同 施設の稼働による付加率欄) 5. 2</p> <p>(予測地点 No. 3 将来濃度 (年平均値) 欄) 0. 001</p> <p>(同 施設の稼働による付加率欄) 1. 1</p> <p>(予測地点 No. 4 将来濃度 (年平均値) 欄) 0. 001</p> <p>(同 施設の稼働による付加率欄) 7. 7</p> <p>(予測地点 No. 5 将来濃度 (年平均値) 欄) 0. 001</p> <p>(同 施設の稼働による付加率欄) 1. 1</p> <p>(最大着地濃度出現地点 将来濃度 (年平均値) 欄) 0. 001</p> <p>(同 施設の稼働による付加率欄) 16. 4</p> | <p>上段 : <u>0. 001</u> 下段 : <u>(0. 001)</u></p> <p>上段 : <u>2. 5</u> 下段 : <u>(3. 1)</u></p> <p>上段 : <u>0. 001</u> 下段 : <u>(0. 001)</u></p> <p>上段 : <u>4. 2</u> 下段 : <u>(5. 2)</u></p> <p>上段 : <u>0. 001</u> 下段 : <u>(0. 001)</u></p> <p>上段 : <u>0. 9</u> 下段 : <u>(1. 1)</u></p> <p>上段 : <u>0. 001</u> 下段 : <u>(0. 001)</u></p> <p>上段 : <u>6. 3</u> 下段 : <u>(7. 7)</u></p> <p>上段 : <u>0. 001</u> 下段 : <u>(0. 001)</u></p> <p>上段 : <u>1. 0</u> 下段 : <u>(1. 1)</u></p> <p>上段 : 0. 001 下段 : (0. 001)</p> <p>上段 : <u>13. 7</u> 下段 : <u>(16. 4)</u></p> <p>(欄外注記) 注) 塩化水素の予測結果上段は、排出濃度 40ppm の再予測結果を示し、下段の () 内の数値は、排出濃度 50ppm の予測結果を示す。</p> |

表 10-1(15) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|----------------------------------|--|--|
| <p>p. 5. 1-98 第 5 章第 1 節</p> | <p>表 5. 1. 3-9(10) 施設の稼働に伴う塩化水素の濃度の評価 (排ガス量最大時)</p> <p>(予測地点 No. 1 将来濃度 (年平均値) 欄) 0. 001</p> <p>(同 施設の稼働による付加率欄) 2. 9</p> <p>(予測地点 No. 2 将来濃度 (年平均値) 欄) 0. 001</p> <p>(同 施設の稼働による付加率欄) 4. 2</p> <p>(予測地点 No. 3 将来濃度 (年平均値) 欄) 0. 001</p> <p>(同 施設の稼働による付加率欄) 1. 3</p> <p>(予測地点 No. 4 将来濃度 (年平均値) 欄) 0. 001</p> <p>(同 施設の稼働による付加率欄) 8. 8</p> <p>(予測地点 No. 5 将来濃度 (年平均値) 欄) 0. 001</p> <p>(同 施設の稼働による付加率欄) 1. 1</p> <p>(最大着地濃度出現地点 将来濃度 (年平均値) 欄) 0. 001</p> <p>(同 施設の稼働による付加率欄) 17. 7</p> | <p>上段 : <u>0. 001</u> 下段 : <u>(0. 001)</u></p> <p>上段 : <u>2. 3</u> 下段 : <u>(2. 9)</u></p> <p>上段 : <u>0. 001</u> 下段 : <u>(0. 001)</u></p> <p>上段 : <u>3. 4</u> 下段 : <u>(4. 2)</u></p> <p>上段 : <u>0. 001</u> 下段 : <u>(0. 001)</u></p> <p>上段 : <u>1. 0</u> 下段 : <u>(1. 3)</u></p> <p>上段 : <u>0. 001</u> 下段 : <u>(0. 001)</u></p> <p>上段 : <u>7. 2</u> 下段 : <u>(8. 8)</u></p> <p>上段 : <u>0. 001</u> 下段 : <u>(0. 001)</u></p> <p>上段 : <u>0. 9</u> 下段 : <u>(1. 1)</u></p> <p>上段 : 0. 001 下段 : (0. 001)</p> <p>上段 : <u>14. 7</u> 下段 : <u>(17. 7)</u></p> <p>(欄外注記) 注) 塩化水素の予測結果上段は、排出濃度 40ppm の再予測結果を示し、下段の () 内の数値は、排出濃度 50ppm の予測結果を示す。</p> |

表 10-1(16) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|----------------------------------|--|--|
| <p>p. 5. 6-24 第 5 章第 6 節</p> | <p>3. 1. 環境保全措置 (1) 埋設廃棄物の掘削・除去に伴う地下水への影響</p> | <p><u>イ. 追加的に講じる環境保全措置</u> <u>予測の結果を踏まえ、追加的に講じることとした環境保全措置は、以下のとおりである。</u> <u>① 埋設廃棄物の掘削・除去に伴い、地下水汚染が確認された場合には、同工事との関連性を評価する目的から、観測頻度を多くし、濃度変動傾向を確認する。また、地下水汚染が確認された物質の埋設廃棄物中の含有量測定や、掘削範囲の土壌分析を実施するなどして、同工事との因果関係を確認する。</u> <u>② 同工事との因果関係の可能性が高いと判断された場合は、別途、揚水井戸を設置し、地下水揚水対策等の汚染拡散防止対策を実施する。</u> <u>(記述追加)</u></p> |
| <p>p. 5. 6-25 第 5 章第 6 節</p> | <p>3. 2. 評価 (2) 評価の結果 ア. 埋設廃棄物の掘削・除去に伴う地下水への影響</p> <p>このため、事後調査として、埋設廃棄物対策等工事の実施中及び工事完了後に、周辺地下水観測孔 5 地点において継続的に水質のモニタリングを行い、地下水への影響の有無を監視する。</p> <p>以上により、埋設廃棄物の掘削・除去に伴う地下水に係る環境影響が、事業者により実行可能な範囲内で回避・低減されていると考える。</p> | <p>このため、事後調査として、埋設廃棄物対策等工事の実施中及び工事完了後に、周辺地下水観測孔 5 地点において継続的に水質のモニタリングを行い、地下水への影響の有無を監視する。<u>また、埋設廃棄物の掘削・除去に伴い、地下水汚染が確認された場合には、工事との因果関係を確認できる調査を実施するとともに、地下水への汚染拡散防止対策を実施する。</u></p> <p>以上により、埋設廃棄物の掘削・除去に伴う地下水に係る環境影響が、事業者により実行可能な範囲内で回避・低減されていると考える。</p> |
| <p>p. 6-1 第 6 章</p> | <p>・大気質（建設機械の稼働に伴う窒素酸化物及び浮遊粒子状物質、工事用資材等の搬出入に伴う窒素酸化物及び浮遊粒子状物質、造成等の施工による一時的な影響及び建設機械の稼働に伴う粉じん等、工事用資材等の搬出入に伴う窒素酸化物及び浮遊粒子状物質、廃棄物の搬出入に伴う窒素酸化物及び浮遊粒子状物質）</p> | <p>・大気質（建設機械の稼働に伴う窒素酸化物及び浮遊粒子状物質、工事用資材等の搬出入に伴う窒素酸化物及び浮遊粒子状物質、造成等の施工による一時的な影響及び建設機械の稼働に伴う粉じん等、工事用資材等の搬出入に伴う粉じん等、廃棄物の搬出入に伴う窒素酸化物及び浮遊粒子状物質）</p> |

表 10-1(17) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|------------------|--|--|
| p. 6-3 第 6 章 | <p>表 6-1(1) 環境影響総合的な評価 (大気質)</p> <p>(予測結果の概要欄)</p> <p>(1) 建設機械の稼働に伴う窒素酸化物及び浮遊粒子状物質</p> <p>建設機械の稼働に伴う大気中における窒素酸化物(二酸化窒素)及び浮遊粒子状物質濃度(年平均値)の予測結果は、敷地境界西側付近の最大着地濃度出現地点における将来濃度は、二酸化窒素が 0.0085ppm、浮遊粒子状物質が 0.0243mg/m³と予測される。また、建設機械の稼働による付加率は、二酸化窒素が 29.67%、浮遊粒子状物質が 1.4%である。</p> | <p>建設機械の稼働に伴う大気中における窒素酸化物(二酸化窒素)及び浮遊粒子状物質濃度(年平均値)の予測結果は、敷地境界西側付近の最大着地濃度出現地点における将来濃度は、二酸化窒素が 0.0085ppm、浮遊粒子状物質が 0.0243mg/m³と予測される。また、建設機械の稼働による付加率は、二酸化窒素が 29.6%、浮遊粒子状物質が 1.4%である。</p> |
| p. 6-5 第 6 章 | <p>表 6-1(2) 環境影響の総合的な評価 (大気質)</p> <p>(予測結果の概要欄、予測結果表タイトル行)</p> <p>工事中の将来濃度 (④=①+②+⑤)</p> <p>表 6-1(2) 環境影響の総合的な評価 (大気質)</p> <p>(評価結果の概要欄)</p> <p>(2) 評価</p> <p>イ. 基準または目標との整合性に係る評価</p> <p>二酸化窒素の日平均値の年間 98%値は 0.018~0.022ppm であり、評価の指標 (0.04~0.06ppm のゾーン内またはそれ以下) を下回る。</p> | <p>工事中の将来濃度 (④=①+②+③)</p> <p>二酸化窒素の日平均値の年間 98%値は 0.017~0.022ppm であり、評価の指標 (0.04~0.06ppm のゾーン内またはそれ以下) を下回る。</p> |
| p. 6-11 第 6 章 | <p>表 6-1(5) 環境影響の総合的な評価 (大気質)</p> <p>(調査結果の概要欄)</p> <p>ア. 硫黄酸化物 (二酸化硫黄)</p> <p>一般環境の調査地点における期間平均値は 0.002~0.003ppm、日平均値の最高値は 0.004~0.008ppm、1 時間値の最高値は 0.010~0.024ppm となっていた。各地点とも日平均値が 0.04 ppm を超えた日がなく、かつ 1 時間値が 0.1 ppm を超えた時間がなく、環境基準値を下回っていた。</p> | <p>一般環境の調査地点における期間平均値は 0.002~0.004ppm、日平均値の最高値は 0.004~0.008ppm、1 時間値の最高値は 0.010~0.024ppm となっていた。各地点とも日平均値が 0.04 ppm を超えた日がなく、かつ 1 時間値が 0.1 ppm を超えた時間がなく、環境基準値を下回っていた。</p> |

表 10-1(18) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|--------------------------|---|---|
| <p>p. 6-11 第 6 章</p> | <p>表 6-1(5) 環境影響の総合的な評価（大気質）</p> <p>（予測結果の概要欄）</p> <p>ア．硫黄酸化物（二酸化硫黄） 排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000128ppm、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.002ppm と予測される。本施設の稼働による付加率は 5.51% である。</p> <p>イ．窒素酸化物（二酸化窒素） 排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000141ppm、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.006ppm と予測される。本施設の稼働による付加率は 2.35% である。</p> <p>ウ．浮遊粒子状物質 排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000041mg/m³、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.023mg/m³ と予測される。本施設の稼働による付加率は 0.17% である。</p> <p>エ．有害物質 （ア）ダイオキシン類 排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000204 pg-TEQ/m³、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.014 pg-TEQ/m³ と予測される。本施設の稼働による付加率は 1.5% である。</p> | <p>排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000128ppm、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は <u>0.003ppm</u> と予測される。本施設の稼働による付加率は <u>5.07%</u> である。</p> <p>排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000141ppm、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は <u>0.007ppm</u> と予測される。本施設の稼働による付加率は <u>2.16%</u> である。</p> <p>排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000041mg/m³、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は 0.023mg/m³ と予測される。本施設の稼働による付加率は <u>0.176%</u> である。</p> <p>排ガス量が最大の場合、最大着地濃度は対象事業実施区域の西南西側約 600m に出現し、付加濃度は 0.000204 pg-TEQ/m³、バックグラウンド濃度を含めた将来濃度は <u>0.015 pg-TEQ/m³</u> と予測される。本施設の稼働による付加率は <u>1.40%</u> である。</p> |

表 10-1(19) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|--------------------------|---|--|
| <p>p. 6-11 第 6 章</p> | <p>表 6-1(2) 環境影響の総合的な評価（大気質）</p> <p>（評価結果の概要欄）</p> <p>イ．基準または目標との整合性に係る評価</p> <p>（ア）長期平均濃度</p> <p>対象事業実施区域西南西側約 600m 付近の最大着地濃度出現地点における将来濃度は、二酸化硫黄（日平均値の 2%除外値）は 0.006ppm、二酸化窒素（日平均値の年間 98%値）は 0.015ppm、浮遊粒子状物質（日平均値の 2%除外値）は 0.058mg/m³、ダイオキシン類（年平均値）は 0.014pg-TEQ/m³、塩化水素（年平均値）0.001ppm となり、いずれも評価の指標を下回る。</p> | <p>対象事業実施区域西南西側約 600m 付近の最大着地濃度出現地点における将来濃度は、二酸化硫黄（日平均値の 2%除外値）は 0.006ppm、二酸化窒素（日平均値の年間 98%値）は <u>0.016</u>ppm、浮遊粒子状物質（日平均値の 2%除外値）は 0.058mg/m³、ダイオキシン類（年平均値）は <u>0.015</u>pg-TEQ/m³、塩化水素（年平均値）0.001ppm となり、いずれも評価の指標を下回る。</p> |
| <p>p. 6-15 第 6 章</p> | <p>表 6-1(7) 環境影響の総合的な評価（大気質）</p> <p>（予測結果の概要欄、予測結果表タイトル行）</p> <p>供用後の将来濃度（④=①+②+⑤）</p> | <p>供用後の将来濃度（④=①+②+③）</p> |

表 10-1(20) 準備書の記載事項の修正内容

| 評価書の頁 | 準備書 | 評価書 |
|----------------------------|---|---|
| <p>p. 6-41 第 6 章</p> | <p>表 6-6(1) 環境影響の総合的な評価（地下水）</p> <p>（評価結果の概要欄）</p> <p>(1) 環境保全措置</p> <p>(2) 評価</p> <p>ア. 環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>このため、事後調査として、埋設廃棄物対策等工事の実施中及び工事完了後に、周辺地下水観測孔 5 地点において継続的に水質のモニタリングを行い、地下水への影響の有無を監視する。</p> <p>以上により、埋設廃棄物の掘削・除去に伴う地下水に係る環境影響が、事業者により実行可能な範囲内で回避・低減されていると考える。</p> | <p>イ. 追加的に講じる環境保全措置</p> <p><u>① 埋設廃棄物の掘削・除去に伴い、地下水汚染が確認された場合には、同工事との関連性を評価する目的から、観測頻度を多くし、濃度変動傾向を確認する。また、地下水汚染が確認された物質の埋設廃棄物中の含有量測定や、掘削範囲の土壌分析を実施するなどして、同工事との因果関係を確認する。</u></p> <p><u>② 同工事との因果関係の可能性が高いと判断された場合は、別途、揚水井戸を設置し、地下水揚水対策等の汚染拡散防止対策を実施する。</u></p> <p><u>（記述追加）</u></p> <p>このため、事後調査として、埋設廃棄物対策等工事の実施中及び工事完了後に、周辺地下水観測孔 5 地点において継続的に水質のモニタリングを行い、地下水への影響の有無を監視する。<u>また、埋設廃棄物の掘削・除去に伴い、地下水汚染が確認された場合には、工事との因果関係を確認できる調査を実施するとともに、地下水への汚染拡散防止対策を実施する。</u></p> <p>以上により、埋設廃棄物の掘削・除去に伴う地下水に係る環境影響が、事業者により実行可能な範囲内で回避・低減されていると考える。</p> |
| <p>p. 9-1～ 第 9 章</p> | | <p><u>（「第 9 章 環境影響評価準備書に対する意見の概要及び知事意見と都市計画決定権者の見解」を追加）</u></p> |
| <p>p. 10-1～ 第 10 章</p> | | <p><u>（「第 10 章 環境影響評価準備書の記載事項の修正内容」を追加）</u></p> |
| <p>p. 11-1 第 11 章</p> | <p>第 9 章 環境影響評価の委託先の名称、代表者の氏名及び所在地</p> <p>委託先の代表者 支社長 本田 忠之</p> | <p>第 11 章 環境影響評価の委託先の名称、代表者の氏名及び所在地</p> <p>委託先の代表者 支社長 <u>近藤 直哉</u></p> |